

| | |
|---------|------------------------------|
| 事業名称 | わがまち太市の未来予想図Ⅱ～空から見ようわたしたちのまち |
| 団体名・代表者 | 特定非営利活動法人 姫路コンベンションサポート |
| 協働の相手方 | 姫路市都市局まちづくり推進部 都市計画課 |

| | |
|-------|---|
| 目的 | 姫路市内でも特に過疎化が進む太市校区では、駅前の地区計画を策定するために、29年度は太市まちづくり協議会を作り、子どもたちに「住みよいまち太市」を引き継ぐための計画をしてきた。この活動を引き継ぎ、子どもたちに地元愛を育んでもらう活動を目的とする。高いビルなど全くない太市のまちを「係留気球」という非日常空間から見ることで、子どもたちへの刺激も与える。 |
| 内容 | ワークショップ（全3回） 子どもたちに加え、保護者もいっしょに太市の全体像をとらえ、太市の良さと太市の抱える課題、子どもたちが考える問題点などをあげ、共有する。そこから未来に残したいもの、未来にあったらいいと思うものを取り出し、人生ゲームを作りあげる。 |
| 事業経過 | 平成30年11月2日 第1回ワークショップ 航空写真を見て、1人ひとり自由に「太市の未来予想図」を描き、なぜその絵を描いたか発表し合う。 平成30年11月23日 第2回ワークショップ 太市の良さと太市の抱える課題について気球に乗って空から町を見下ろし個々に考えたことをみんなで共有し、改めて自分たちの住むまちの未来について話し合う。 平成30年12月4日 第3回ワークショップ まちの未来について考えたことから「未来に残したい太市」「太市に未来にあったらよいと思うもの」を抽出し、それらを取り入れ「OH!ONE（太市）人生ゲーム」を作りあげる。 |
| 事業の効果 | 「気球に乗る」ことは子どもたちを刺激し、他の授業にも様々な形で気球に関することや太市のまちについて考える時間が取り入れられた。またオープンスクールで全校生徒が搭乗したことで、子ども同志だけでなく保護者や地域の大人と子どもたちに共通の話題ができ、家庭や地域で考えるきっかけとなり得たと考える。自分たちの町を大切に思い、愛着を持つ子どもの思いに触れ、大人の「まちづくり」に対し意識に変化をもたらすことが出来たと考える。 |
| 今後の展望 | 今回のワークショップで子どもたちが考えた「まちの未来」について自治会や地域の人々に発表する場を設け、限られた住民で考える「まちづくり」ではなく、世代を超えて多くの人が「まち」に興味を持ち「まち」のことを考える機会を持ちたいと考える。 |

【実施団体の事業総括・感想等】

| |
|--|
| 子どもたちは大人が思う以上に豊かな自然や歴史遺産に誇りと愛着を持ち、さらにまち全体が「便利」で住みやすいと思える町にしたいと考えていた。そんな子どもの思いに触れ、「太市の町に気球が来た」ことでまち全体に共通の話題が出来、地域が一つになれば、大人の中にも「まちづくり」に対して意識変化が生まれたと感じた。多世代が「まちづくり」に関わり様々な意見が少しずつでも取り入れられるよう今後も継続的に関わりたいと考える。 |
|--|

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

| |
|---|
| <h4>【都市計画課】</h4> <p>子どもたちは大人が思っている以上に自分のまちに必要な施設や地域資源の重要性を認識していることが、事業に参画したことにより把握することができ、昨年度末に策定した住民主体のまちづくり計画である地区計画に寄与することができたと思われる。</p> |
|---|